

背景・課題

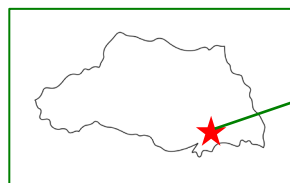
JAあさか野管内は、首都圏に位置するという地の利を生かし、いちごの摘み取り体験が盛んに行われている。消費者と触れ合う機会が多く、消費者の食の安全へのニーズの高まりを受け、安全安心な低農薬での栽培を求められることが多くなっている。また、定期的な農薬散布によって病害虫の防除を行っているが、近年の異常気象によって病害虫の発生予測が難しくなり、発生状況を見ながら追加的に行う防除の作業負担及び人件費の増加が課題となっている。

成果目標

- 紫外光（UV-B）照射技術の活用による
化学農薬の使用回数及び散布時間の削減

主な取組内容

- いちごの重要病害であるうどんこ病とダニ類の防除に紫外光（UV-B）照射技術を導入し、うどんこ病とダニ類の発生状況及び化学農薬の使用回数を調査している。導入前の防除体系との比較を行うことで、減化学農薬・省力化体系を検討している。



朝霞市、志木市
和光市、新座市

構 成 員

農業者、JAあさか野、
埼玉県さいたま農林振興センター

品 目

いちご



UV-Bランプ



ハダニの様子

普及に向けた取組

紫外光（UV-B）照射技術を活用した栽培方法は、導入経費に加え、地域のマニュアルがない等、普及に向けた課題があることから、本事業を活用し、実証試験結果の共有やマニュアル作成を行い、生産者の技術理解を促進し、地域の技術普及を目指す。

問い合わせ先

埼玉県さいたま農林振興センター
TEL：048-822-2492